

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「露茜斑入果病(仮称)」のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止と、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証のため、うめ研究所の研究成果を踏まえて、主幹形仕立ての栽培園を今年新たに実証展示ほとして設置するとともに、6月25日、収量調査を実施した。また、昨年JA紀州選果場内に整備された大型追熟処理施設において、JA紀州、うめ研究所とともに大量追熟処理等の調査を実施し、概ね良好な結果が得られた。

「露茜斑入果病(仮称)」の感染状況を把握するため、追熟処理後の果実を調査するとともに、管内に植栽された苗木のウィロイド検定のため、JA紀州と協力し、葉の回収とサンプル調製作業を実施した。調整したサンプルは、9月以降、果樹関係試験場において順次検定が行われるとともに、せん定前にはまん延防止のための講習会を開催する予定である。



主幹形栽培展示園の収量調査



JA処理庫による大量追熟処理



斑入果の発生状況を調査



ウィロイド検定用サンプルの調製

## 2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修会を実施

7月17日、日高地方農業士会女性部会（部会長：鶴尾安代）が農産物の市場流通について学ぶとともに会員同士の交流を図ることを目的に現地研修会を実施し、会員14名が参加した。

西日本最大級の大阪市中央卸売市場本場を訪れ、市場協会の担当者から市場での注意事項を聞いた後、果実卸売場、水産卸売場並びに野菜卸売場を見学した。

せりが終了していた果実のせり場では、担当者からせりをするときに使う、手で数字を表す手振符牒（てぶりふちょう）を体験した。その後、日本各地から届いた旬の果物がところ狭しと並んでいる仲卸店舗を見学し、その場で果物の仕入れ体験もすることができた。

約2時間の見学コースの終わりに市場内のせりの様子や概要等を解説したビデオを鑑賞した。

会員からは、「和歌山県産の桃や初めて見る野菜もあった」、「仲卸店舗で果物や水産物の仕入れ体験ができて、勉強になった」などの感想があった。

次回は、11月に日高町内で研修会を実施する予定である。



せりの担当者から説明を聞く会員



仲卸店舗での仕入れ体験

### 3. 印南町農業士会がサル対策研修会を開催

印南町農業士会(会長：尾曾紀文)は、7月26日、三重県伊賀市の阿波地域住民自治協議会を訪問し、地元代表者及びサル対策に携わってきた兵庫県立大学山端教授からサルの生態と被害対策について説明を受けた。

阿波地域は、主要農産物の米、麦、大豆等へのサル被害はもちろんのこと、住宅内にサルが侵入し日常生活が脅かされる程サルによる被害が大きかったが、地域住民が一丸となった追い払い活動に加え、ワイヤーメッシュ+電気柵(おじろ用心棒)の設置、捕獲による個体数管理に取り組んだ結果、被害をほぼなくすことに成功。平成25年度鳥獣被害対策優良活動表彰において農林水産大臣賞を受賞している。

説明では、まず地域の「エサ場価値」を下げるのが最重要であり、①不要果樹等エサ場の除去、②藪等の隠れ場の解消、③防護柵の設置、④効果的な追い払いに取り組む必要があるとのことで、特に④の追い払い効果を高めるためには、サルを発見する度に、複数人で、サルの動きに逆らわず、集落外まで追い払うことを繰り返すことが重要で、阿波地区では、老若男女を問わず、地域住民が協力し合って実施してきたとのこと。

印南町においてもサル対策への関心が高まっており、出席者からは、サルの習性、箱罠に適した餌の種類、地域の合意形成のプロセス等熱心に質問が出されるなど、充実した研修となった。

農業水産振興課では、サルに発信機を取り付け行動域調査を行うとともに、その情報を農業者に提供する等の支援を継続していく。



熱心に聴講する参加者



「おじろ用心棒」設置現地での説明を受ける